

# 吉野川下流大規模氾濫に関する減災対策協議会

## 取組方針（抜粋）

### 6. 概ね5年で実施する取組

氾濫が発生することを前提として、社会全体で常にこれに備える「水防災意識社会」を再構築することを目的に、各構成員が取り組む主な内容

#### 1) ハード対策の取組

#### 2) ソフト対策の主な取組

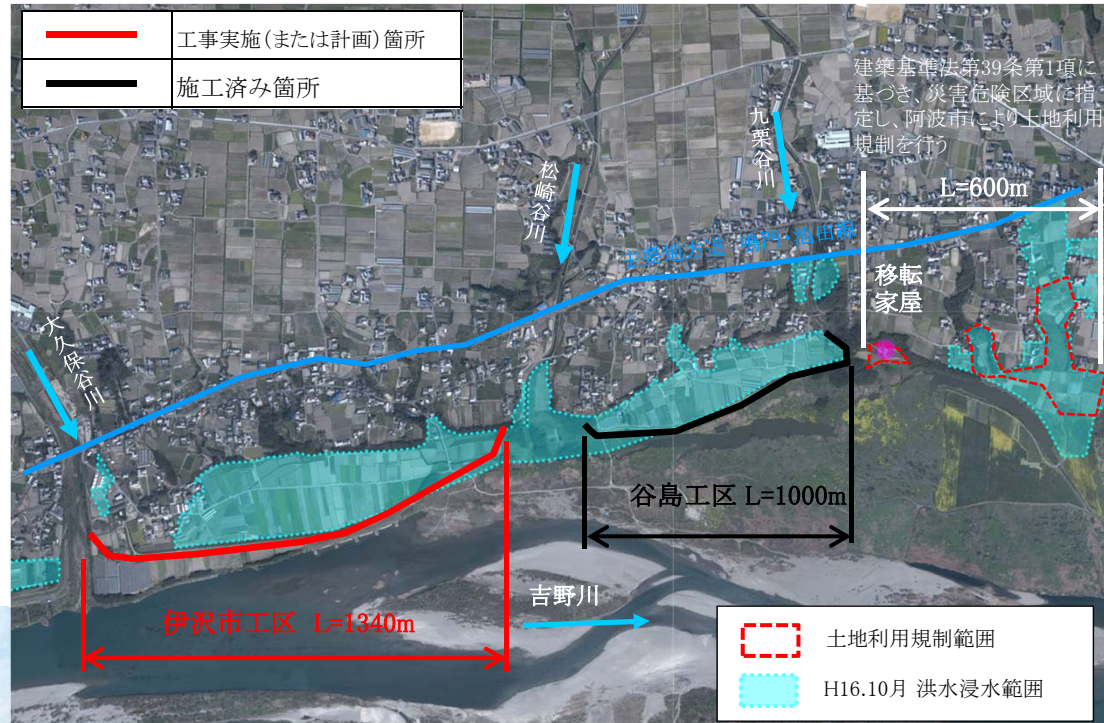
- ① 危機意識の高揚に向けた啓発活動、情報発信の強化を実施
- ② 避難時間確保のための情報発信手法の確立と水防活動の強化を実施
- ③ 排水・施設運用等の現状把握と緊急排水計画(案)の作成等を実施

# 1)ハード対策の取組

# 勝命箇所の堤防整備

## ■ 事業概要

- 平成23年度着手
- 延長2,570m  
(整備計画策定後の延長2,570m)  
＜事業実施による被害軽減効果＞
- 解消する浸水面積 40ha
- 解消する浸水家屋数 120戸



R2.10撮影

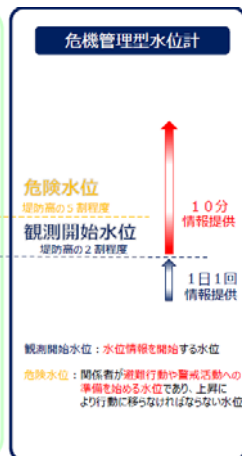


# 1)ハード対策の取組

# 危機管理型水位計

## ■ 「危機管理型水位計」の設置（令和元年6月運用開始）

- ▶ 住民や要配慮者の早期避難を支援するため、県下の「浸水実績」などのある50河川（52箇所）に設置
- ▶ ウェブサイト「川の水位情報（国土交通省）」で一般公開

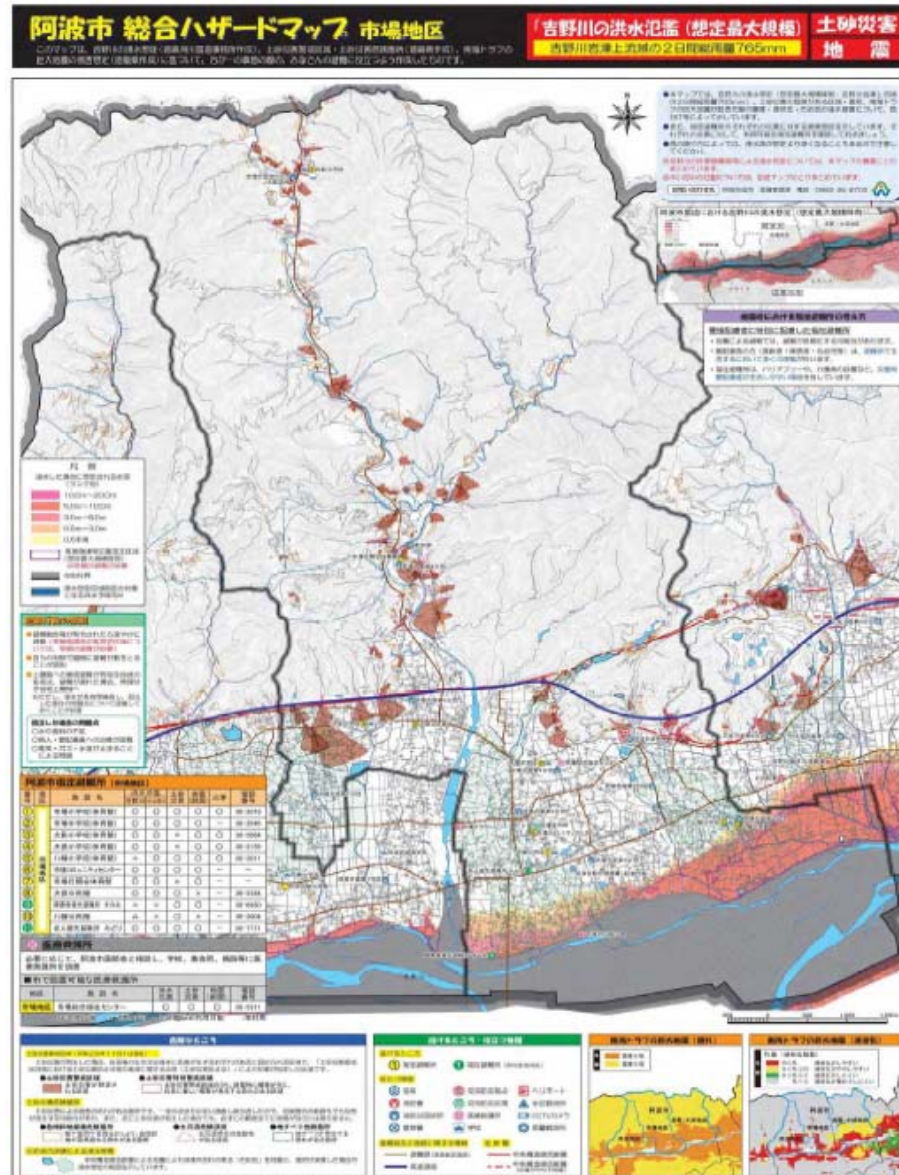




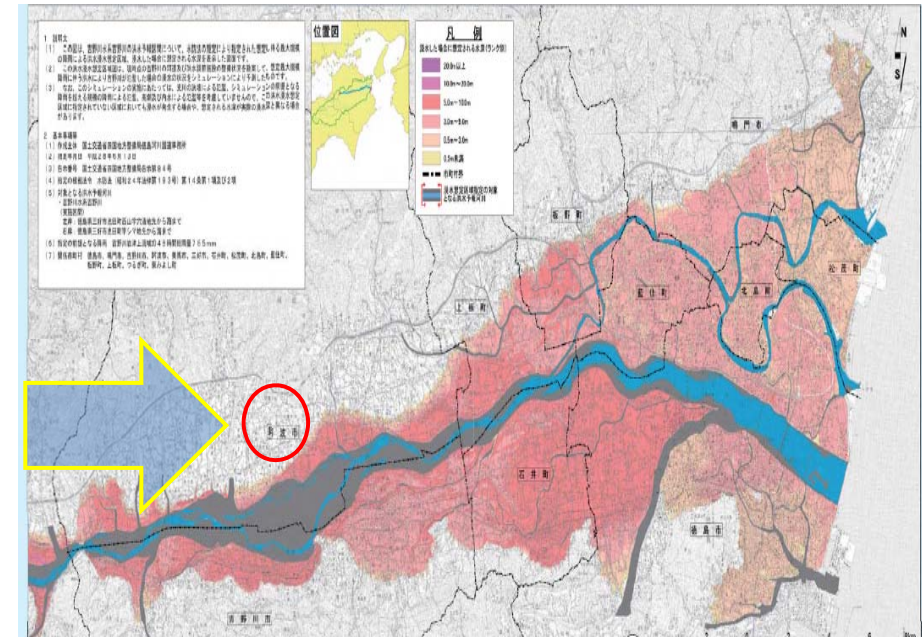
## 2)ソフト対策の 主な取組①

# ハザードマップの改訂

### ■阿波市 総合ハザードマップ（市場地区）



### ■吉野川(下流区間)洪水浸水想定区域図



国の「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」において、本市の交流防災拠点施設・アエルワが「広域物資輸送拠点」に指定されたことなどを受け、平成29年2月に「地域防災計画」を改定し、これに併せ、ハザードマップの改訂版を作成し、同年5月に、市内の全戸に配布すると共に、本市のホームページで公開を開始しました。

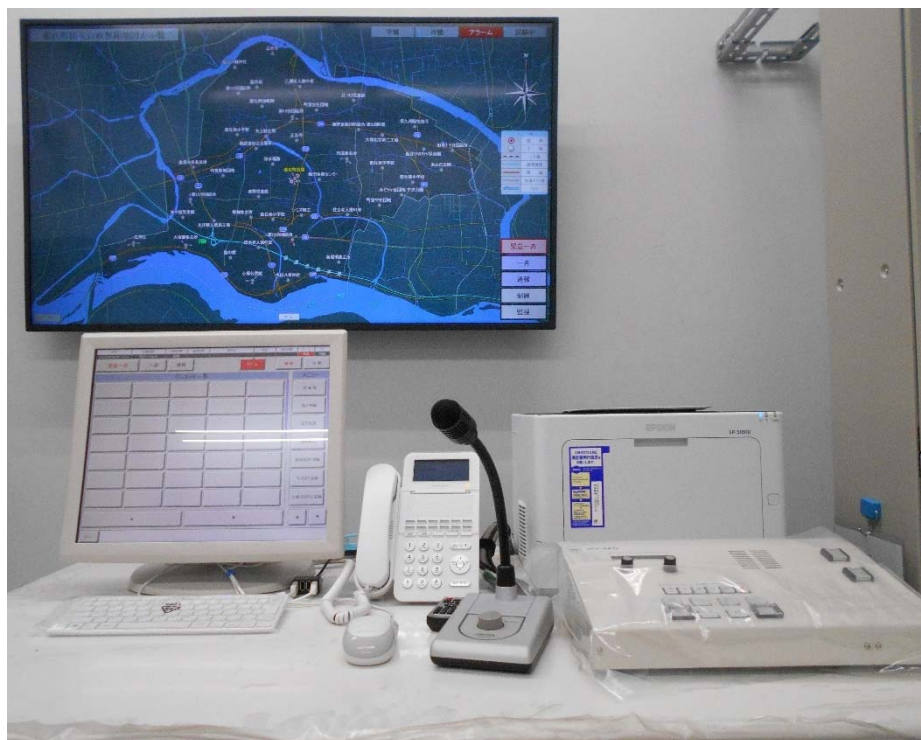
## 2)ソフト対策の 主な取組①

# 同報系防災行政無線デジタル化再整備事業

近年、全国各地で地震、洪水等の自然災害が発生し、住民の避難行動の遅れなどが課題となっています。

このため本町では、災害時住民への情報伝達の多重化・円滑化を推進するため、同報系防災行政無線のデジタル化による再整備を実施しています。

また、本町のアナログ同報系防災行政無線は、運用から20年以上が経過し、老朽化や部品の製造中止等により設備拡張や修理に支障をきたす恐れがあり、デジタル化による再整備が急がれる状況となっています。



## ■デジタル化のメリット

- 音声合成による放送が可能となり、放送内容が聞き取りやすくなります。
- 双方向通信が可能となるため、親局と屋外拡声子局との間で、電話のような連絡通信ができるようになります。
- メールの自動配信や自動電話応答サービス等、その他の情報手段と連携が可能になります。
- ノイズが軽減され放送音声クリアになります。



## 2) ソフト対策の 主な取組②

# 避難確保計画作成推進事業

### ➤ 避難訓練の支援

避難確保計画作成済みの要配慮者利用施設からモデル施設を選定し、避難訓練の実施を支援するとともに、計画の実効性を検証し、必要に応じて避難確保計画の見直しを支援する。



### ➤ モデル施設

吉野川市内の「ケアハウス 健祥会プロバンス」をモデル施設として選定。

当該施設は、吉野川及び飯尾川の浸水想定区域内に位置し、平成16・26年の台風において付近まで浸水している。また、デイサービスセンターを併設しており、グループホームが隣接している。



### ➤ 避難訓練の手引き

避難訓練の支援で得られた成果を踏まえ、避難訓練の手引きを作成し、公開することにより、避難確保計画の実効性の確保を支援する。







## 2)ソフト対策の主な取組③

# 高性能排水ポンプ車の導入

○令和2年2月に、県内市町村で初めて高性能排水ポンプ車を導入しました。  
台風や集中豪雨による河川氾濫により住宅地が浸水した場合や道路が冠水した場合に、排水ポンプ車を柔軟かつ機動的に運用し、現場の最前線に速やかに駆けつけ排水作業を行います。  
ポンプ車の運用は、市職員で構成する「阿波市消防団 救援機動隊」が担い日々訓練を重ねています。



〔阿波市排水ポンプ車〕

### 主要諸元

車体寸法：全長7,690mm×全幅2,285mm×全高2,720mm

車両総重量：7,920kg

乗車定員：2名

使用燃料（容量）：軽油（350ℓ）

連続運転時間：12時間

総排水量：30m<sup>3</sup>/分

ポンプ台数：6台



〔阿波市消防団 救援機動隊〕

### 【救援機動隊】

救助に関する知識と専門技術、また特殊な資機材を駆使し、火災や自然災害などあらゆる災害対応に従事。

新たに組織の中に、洪水災害対策のために活動する『排水ポンプ車隊』を設立。



## 今後の減災対策協議会について

吉野川下流大規模氾濫に関する減災対策協議会（以下 本会）においては、水防災意識社会の実現に向け、5ヶ年（令和2年度）を目標とする緊急行動計画として、避難・水防対策及び危機管理型ハード対策などについて取り組みを実施してきた。

令和2年度で緊急行動計画が終了することから、令和3年度以降の本会のあり方について、下記の方針を進めることを確認する。

### 記

- 『「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく吉野川下流域の減災に係る取組方針』に位置付けていたもので、河川整備などのハード対策については、必要に応じて、「吉野川流域治水協議会」において協議する。
- 当会は水防法に基づいて設置されており、現況施設能力を上回る（氾濫が発生する）あらゆる規模の洪水の被害を軽減するための対策について協議する場であるため、避難計画、水位情報の強化などの「避難・水防に係る対策」を中心に、協議を継続する。
- 「避難・水防に係る対策」については、令和3年度に開催する協議会において、今後、各構成員が取り組む主な内容を記載した「取組方針」を策定する。

# 「緊急行動計画」の今後の展開について

- 水防災意識社会の実現に向け、令和2年度を目標として、円滑かつ迅速な避難・被害軽減のための取り組み等について「緊急行動計画」として取りまとめ着実に推進してきた。このうち、危機管理型ハード対策については、令和2年度までにおおむね完了の見込みとなったところ。
- 緊急行動計画に含まれていた避難や水防対策については、引き続き、大規模氾濫減災協議会において「地域の取組方針」を作成するとともに、これを各河川で進められている「流域治水プロジェクト」に位置付けることで、あらゆる関係者との密接な連携体制のもと、防災・減災の取組を継続的に推進していく。

